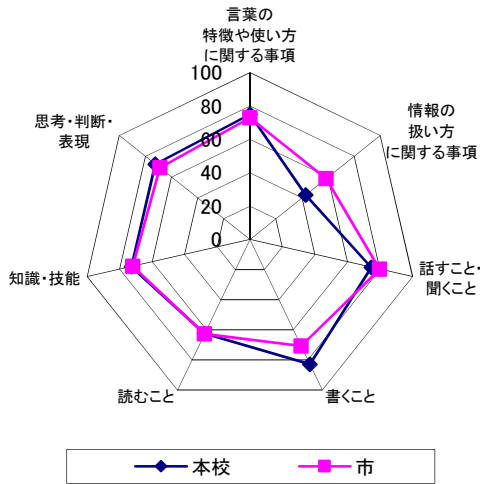


宇都宮市立城山東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.1	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	42.9	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	74.6	79.8	75.9
	書くこと	82.9	70.7	71.7
	読むこと	62.6	62.8	62.5
観点別	知識・技能	72.8	72.0	74.4
	思考・判断・表現	72.5	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

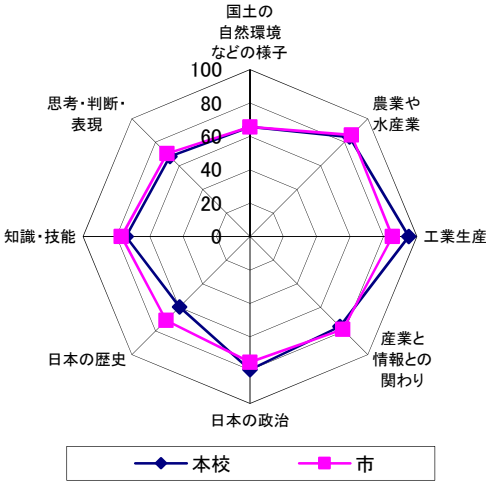
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読み書きについては8問出題されており、平均すると8割以上の正答率である。日頃から繰り返し丁寧に練習を行っている成果が表れていると考えられる。 ○文章を書く際の段落の役割については、おおむね理解し、指定された段落構成で書くことができていた。 ●同じ読みの漢字の使い分けについて理解し、文の中で正しく用いることに、課題が見られた。	・漢字については、宿題や朝の学習などで定期的に練習や小テストを行うことで定着を図る。また、漢字辞典や国語辞典を身近に置き、意味を理解した上で漢字を使用するようにする。
情報の扱い方に関する事項	●設問は記述式で、資料に書かれている情報を理解し、その情報をもとに目的に応じて文章を簡単にまとめて書くという問題である。正答率は4割程度で、無解答も約3割あった。資料に書かれている情報と問題で問われていることをつなげるところに課題があると考えられる。	・国語や総合的な学習の時間などの調べ学習の際、目的を明確にしてそれに沿った資料を選ぶように、また、得た情報をそのまま書き写さず、必要な情報を抜き出してまとめられるように指導する。
話すこと・聞くこと	●互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめていく過程についての設問である。問題は3問であるが、いずれも市の平均を下回っており、話し合いの内容を聞き取ることに課題があると考えられる。	・話し合い活動において、話し合いの目的を明確にしたり、「考えるときのヒント(比べる、つなげる、分類する、など)」や「みんなで学び合い伝え合おう」の教室掲示を活用したりして、友達の話を主体的に聞くことができるようにする。
書くこと	○情報をもとに報告する文章を書くことには課題が見られたが、与えられたテーマについて、自分の考えを141字～200字で書く設問では正答率が高く、市の平均を大きく上回った。すべての児童が自分の意見を明確にし、賛成しない意見に対する反論も書くことができていた。	・引き続き、全校で作文帳を活用し、定期的に日記や意見文を書くことを行い、「書くこと」に慣れていけるようにする。 ・情報をもとに報告する文章を書くことについては、国語や総合的な学習の時間などの調べ学習の際、目的を明確にしてそれに沿った資料を選ぶように、また、得た情報をそのまま書き写さず、必要な情報を抜き出してまとめられるように指導する。
読むこと	○説明文の内容の読み取りについては、市の平均を上回っている。 ○●物語の内容の読み取りでは、物語の全体像や登場人物の心情はおおむね捉えることができていたが、人物の心情の変化を表すために使われている表現の効果を適切に捉えることについては、誤答が目立った。	・物語文の学習では、作品内の叙述や描写を細かく捉え、捉えたことを人物の心情や関係性と関連付けて読み取っていけるように指導する。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	65.7	65.7	67.0
	農業や水産業	84.5	86.1	77.5
	工業生産	95.2	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	76.2	78.6	69.6
	日本の政治	79.8	75.2	65.8
	日本の歴史	59.5	71.1	69.1
観点別	知識・技能	74.2	77.0	72.8
	思考・判断・表現	67.9	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

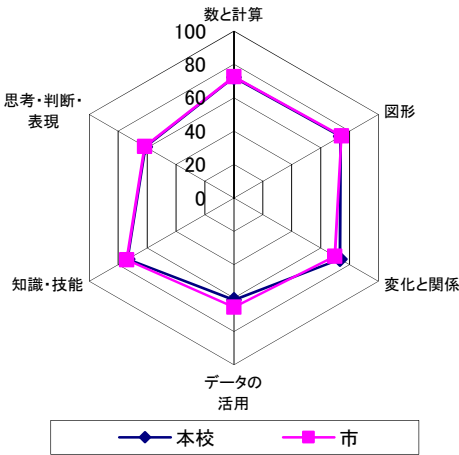
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○●領域の正答率は、市の平均と同じである。日本における自然環境を守るための取り組みや自然災害から命を守るための取り組みについてはよく理解しているが、周辺の国と領土についての問題の正答率は約5割であり、理解が不十分であるといえる。	・周辺の国の名称や位置、日本の領土については、世界地図や日本地図などの掲示資料や地球儀など、児童自身が日常的に自ら確認できる環境を整えておく。また、日本とつながりのある諸外国との関係について学ぶ際にも、その都度場所を確認するなど、関連付けて学習できるよう工夫していく。
農業や水産業	○日本の食料生産について、記述式以外の問題ではいずれも正答率が85%を超えていることから、よく理解しているといえる。 ●図とグラフをもとに米作りの生産効率について考え、言葉で表現する問題は、市の平均を下回っている。	・社会科や総合的な学習の時間などで、複数の資料を読み取り、分かったことや考えたことを表現する活動を多く取り入れていく。
工業生産	○日本の工業生産についての問題は2問で、どちらも正答率が高く、よく理解しているといえる。	・工業生産については、地域の特色や輸送の働きなどと関連付けながら学習を進めていく。
産業と情報との関わり	○●わたしたちの生活と情報について、情報の正しい受け取り方を答える問題の正答率は高かったが、情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断する問題の正答率は6割に届かず、課題があるといえる。	・今後も、国語や社会、総合的な学習の時間などで、身のまわりの情報メディアの特徴を理解させるとともに、その利便性や活用する上での問題点など、自分の生活と結び付けて考えられるように指導を行う。
日本の政治	○領域の正答率は約8割であり、日本の政治についてはおおむね理解しているといえる。	・今後も、自分たちの生活と結び付けて政治について考えていけるように指導を行う。
日本の歴史	●領域の正答率は6割に達しておらず、理解が不十分であると考えられる。特に、聖武天皇の政治や平清盛、源頼朝の業績など、人物と時代や出来事が結び付いていないことが課題である。	・歴史の領域では、興味、関心に個人差が大きく見られる。歴史に関する書籍の紹介をするなど、環境を整え、興味をもって学習に臨めるように配慮する。また、人物カードを作り、年表にまとめるなどの復習をして、定着を図りたい。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.3	72.6	71.6
	図形	73.8	74.4	72.0
	変化と関係	73.3	69.8	62.6
	データの活用	61.1	65.5	59.1
観点別	知識・技能	73.5	74.1	68.9
	思考・判断・表現	61.2	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

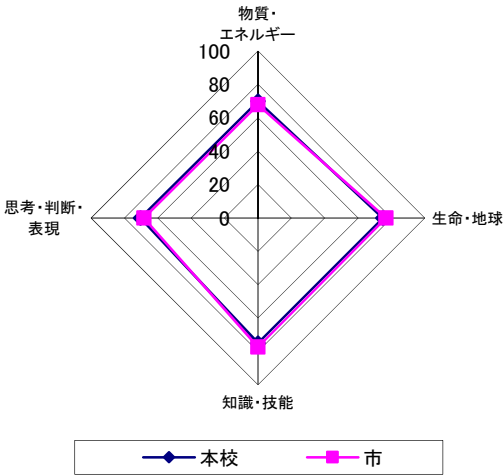
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数、分数の計算については、9問中7問で市の平均を上回っており、よく身に付いているといえる。 ●文字を使って表された式についての正答率は市の平均を大きく下回っている。問題文の内容と式とを結び付けることに課題があると考えられる。	・文字を使った式では、当該学年より下の学年の問題から繰り返し復習をし、定着を図る。問題を解く際には、文字に具体的な数字を当てはめ、式の意味を理解できるように指導する。
図形	○対称な図形についての正答率は高く、よく理解しているといえる。 ●台形の面積、直方体を組み合わせた立体の体積を求める問題では、必要のない辺の長さを使って計算するなどの誤答が見られた。	・様々な図形の面積、体積の求め方を復習し、定着を図る。その際、公式をそのまま覚えるのではなく、なぜその式で求められるのかをもう一度確認する。
変化と関係	○単位量あたりの大きさについては正答率が高く、よく理解しているといえる。 ●速さについては、市の平均を下回っており、特に記述式の問題では無解答が4割近く見られた。	・速さについては、公式をそのまま覚えるのではなく、生活の中での時間と距離、速さの関係と結び付けて考えていけるように指導を行う。 ・式や図、言葉を使って自分の考えを伝える活動を今後も積極的に取り入れ、表現力を高めていく。
データの活用	●領域の正答率は他の領域に比べて低く、課題があるといえる。データの見方における「最頻値」の理解や、折れ線グラフの読み取りなど、データについての基礎的な理解が不十分であると考えられる。	・算数だけでなく、他教科においても積極的にデータの読み取りを行い、データから読み取れることを表現する活動を行っていく。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.8	67.8	64.1
	生命・地球	74.9	76.7	78.3
観点別	知識・技能	75.0	77.4	78.3
	思考・判断・表現	70.4	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域の正答率は、市の平均を上回っている。特に、「物の燃え方」については記述式の問題以外は正答率が9割を超えており、よく理解している。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・電流のはたらきやろ過の操作など、理解が不十分なところも見られるので、再度復習を行う。
生命・地球	○「動物の体のつくりとはたらき」では、繰り返し復習を行ってきたことで、臓器の名称やはたらきなどについて、よく理解できている。 ●「天気の変化」では、春ごろの日本付近の天気の変わり方についての問題の正答率が低かった。地図上での雲の動きを読み取ることに課題があるといえる。	・「天気の変化」については、再度復習を行うとともに、実際の天気の変化と結び付けて理解することができるよう、インターネットの雲画像やアメダスの降水量情報などを見せて考えさせるようにする。

宇都宮市立城山東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	・「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施 ・朝の学習におけるTT(複数の教員での指導)の実施 ・既習の計算を織り交ぜた復習問題の実施	国語、算数ともに、基礎問題については、正答率が市の平均を上回っており、漢字や計算などの繰り返し学習の成果が表れている。 アンケートにおける「学校の授業がどの程度分かりますか」(3年生以上)の設問では、8割以上が肯定的な回答をしているが、市の平均は下回っている。
思考力・表現力を育むための効果的な指導の充実	・「考えるときのヒント」の活用(比べる、つなげる、分類する など) ・話し合い活動の日常化 ・話し合いのねらいと視点の明確化 ・指導法についての校内研修の実施	アンケートにおいて、「ものごとを比べながら(中学年)いろいろな視点や立場から(高学年)考えている」と回答した児童は約8割であり、市の平均を上回っている。 学習内容定着度調査における「思考・判断・表現」の観点を見ると、国語と理科では市の平均を上回っているが、社会については平均を下回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・「家庭学習の手引き」の活用(児童・保護者) ・地域学校園共通の合言葉「宿題プラス1」の周知・徹底 ・年2回の「家庭学習がんばり週間」の実施と自主学習の実践の紹介	アンケートにおける一日の学習時間を見ると、どの学年も地域学校園で目安としている時間(低学年…20分、中学年…40分、高学年…1時間)の家庭学習がおおむねできていることが分かるが、休日の学習時間は少ない傾向が見られる。 「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」「テストで間違えた問題はもう一度やり直している」(4～6年生)については、肯定割合が前年度を大きく上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・今年度は特に、朝の学習における複数体制での指導による基礎・基本の定着に力を入れてきた。6年生の市の調査や、3～5年生の学年のまとめのテストにおける結果を見ると、成果が出てきている。次年度も引き続き、宮っ子学習ステップアップシートの活用や既習の計算を織り交ぜた復習問題の作成と活用、朝の学習におけるTTの充実などにより、基礎・基本の定着を図っていく。

・今年度は、話し合い活動を積極的に行うことが難しかったが、学校全体で「考えるときのヒント(思考のすべ)」について研究し、授業の中で活用することで、思考力・表現力の育成に取り組んだ。アンケートの結果や、6年生の定着度調査からも成果が少しずつではあるが見えてきているので、次年度は、話し合い活動を充実させるとともに、「考えるときのヒント」をさらに活用し、思考力・表現力の育成を図っていく。

・家庭学習については、昨年度の課題であった「テストでまちがえた問題の解き直し」や「自分で計画を立てて学習を進めること」が少しずつ定着してきていることが分かった。次年度も、学校全体での共通理解のもと、「学び通信」などを通して家庭に向けた情報発信を行っていくとともに、児童の取組を積極的に紹介していく。